

みんなでつなぐ

# ダム水源地ネット

2002.5月号 5

散歩道  
ダム貯水池の水質問題解決にむけて

地域活性化レポート  
自然環境を守り、心豊かな町づくりを目指して

情報ホットライン  
ワークショップ  
「自然と共生した流域圏・都市の再生」開催報告

こちらダム水源地  
徳山ダム上流に実のなる木を植えよう大作戦 ほか

# 亀川ダム

九州の宝島・天草本渡



亀川ダムまで

本渡市役所から	.....9km
本渡港から	.....9km
天草瀬戸大橋から	.....8km

今月の水源地

**亀川ダム**  
九州の宝島・天草本渡 — 2

今月の行事 — 4

散歩道(バセオ)

**ダム貯水池の水質問題解決にむけて** — 5  
柏谷 衛

ワンポイント・ゼミナー

**ダム水環境改善事業の拡充について** — 6

地域活性化レポート

**自然環境を守り、  
心豊かな町づくりを目指して** — 8

情報ホットライン

**ワークショップ  
「自然と共生した流域圏・都市の再生」  
開催報告** — 10

こちらダム水源地

**徳山ダム上流に実のなる木を植えよう大作戦** — 12

**第3回「夢吊橋マラソン大会」開催** — 13

**やまもりフェスタ2002** — 14

**トピックス** — 15

[今月の表紙]

**亀川ダム** 四季折々に変化を見せるダム湖畔

編集事務局：財団法人 ダム水源地環境整備センター ダム広報センター

所在地：〒102-0083 東京都千代田区麹町2-14-2

TEL 03-3263-9051 FAX 03-3263-9085

http://www.wec.or.jp/

E-mail:koho@wec.or.jp

熊本県本渡市は、熊本県の南西部に浮かぶ天草上島と下島の中央部に位置し、四季の変化に富み、柑橘類の栽培などが盛んに行われています。また、周辺海域である、八代海及び有明海の海の幸にも恵まれた自然豊かなまちであるとともに、天草は、自然と歴史に恵まれた「九州の宝島」と呼ばれています。

当市にある亀川ダムは、亀川総合開発事業の一環として、洪水調節、かんがい、上水道用水の供給及び河川環境の保全等のための流水の確保を目的に建設された多目的ダムで、総事業費62億円を投じて昭和57年度に完成しました。また、平成8年度には、湖畔に公園が作られ、憩いの場として多くの人が利用しています。

美しい海と緑にかこまれた、オリンピックスタンス発祥の地でもある当市では毎年「天草国際トライアスロン大会」が行なわれます。夏の「天草ほんど夏祭り」では、天草ハイヤ道中踊りや約5000発の花火大会で夏の夜空を彩ります。また、秋には、天草・島原の乱の古戦場で国指定重要文化財である「祇園橋」と、

殉教公園を中心に、宗教を越えて殉教した人々や両軍の霊を弔う「天草殉教祭」など四季折々の催し物が開催されています。

天草は昭和31年に「雲仙・天草国立公園」に編入指定されており、天草西海岸は荒々しい海原、天草東海岸は穏やかな海の両面性を備えており、海岸線はその所々で違った趣ある風景を演出し、訪れた人々をやさしく包み込んでくれます。

「九州の宝島」天草本渡へ、是非お越しください。

本渡市のおみやげ

デコボン、ボンカン、ボンカンワイン、水の平焼、丸尾焼、南蛮手まり、天草竹細工、和菓子「あか巻」「南蛮手まり」「兜梅」、海老煎餅、うに豆、いも飴、

本渡市のイベント

天草国際トライアスロン大会、天草ほんど夏まつり(天草ハイヤ道中踊り、花火大会)、天草殉教祭、夜市、天草マラソン大会、

交通

熊本市から陸路約2時間30分、空路20分、海路(高速船)約1時間、福岡市から空路35分

本渡市 建設部土木課 道路建設係長 江崎 和男

(☎)0969-231-1111  
http://www.city.hondokumamoto.jp/

5月

《東北》

11日(土)・12日(日)/レークピア白水 自然観察&クリーン大作戦  
(場所:山形県東根市)主催/自然遊(NPO)  
内容/白水川ダム周辺清掃、カヌーによるダム湖面の清掃、湖畔ハイイク。【代表:黒田美喜男☎023-653-8864】

《関東》

12日(日)/新緑の遊歩道を小さな詩画の旅(場所:群馬県東村わたらせ渓谷鐵道神戸駅)主催/富弘美術館を囲む会群馬県支部【富沢☎0277-53-7030】内容/わたらせ渓谷鐵道神戸駅から草木湖畔の富弘美術館までの遊歩道をハイキングしながらの清掃ボランティア。

12日(日)/ツツジ祭りin桜山(場所:群馬県鬼石町桜山公園)主催/鬼石町役場【産業観光課☎0274-52-3111】内容/桜山公園のツツジが満開で見頃である。午前10時開始。鬼石町には下久保ダムがある。

25日(土)/子ども自然クラブ「挑戦、ザリガニつり」(場所:埼玉県荒川調節池(彩湖)・彩湖自然学習センター)主催/彩湖自然学習センター【☎048-422-9991】内容/四季を通して自然とのふれあいを楽しむクラブ。

26日(日)/野鳥観察会「彩湖周辺の野鳥・夏」(場所:埼玉県荒川調節池(彩湖)・彩湖自然学習センター)主催/彩湖自然学習センター【☎048-422-9991】内容/彩湖周辺の野鳥を観察。(一般・親子対象)

《中部》

中 旬/岩屋ダム写生大会(場所:岐阜県金山町岩屋ダム堤体周辺)主催/水資源開発公団岩屋ダム管理所【総務課☎0576-35-2339】内容/地元の小学生を対象に写生大会を実施。作品を「森と湖のある風景画コンクール」に応募する。

17日(金)/木祖村・日進市友好自治体提携10周年記念関係4団体合同植樹祭(場所:長野県木祖村小木曾)主催/木祖村【建設農林課☎0264-36-2001】・日進市 共催/木曾森林管理署、木曾森林組合 内容/本年度で友好自治体提携10周年となる節目の年に、記念事業として上下流域住民が今まで以上に友好の輪を広げるべく、植樹を行う。木祖村には味噌川ダムがある。

19日(日)/2002ふるさとふれあい稲武ジョギング大会(場所:愛知県稲武町 矢作川水系名倉川支流黒田ダム湖周辺)主催/稲武町、中津川市、名古屋市 内容/ふるさと協定を締結している地域を中心に新緑の中をのんびり走る。【稲武町役場企画課☎05368-2-2511】

《近畿》

3日(金)/奥琵琶湖の歴史と自然を訪ねて(場所:滋賀県余呉町余呉湖、賤ヶ岳、山本山縦走コース)主催/余呉町役場【☎0749-86-3221】内容/余呉湖~賤ヶ岳~山本山~朝日山神社まで12kmを歩くハイキング。

6日(月)/新緑の妙里の里を訪ねて・山椒摘みツアー(場所:滋賀県余呉町菅並)主催/余呉町役場地域振興課【☎0749-86-3221】内容/余呉駅~菅並(山椒摘み)~洞寿院~余呉駅

19日(日)/布目湖畔サイクルフェスタ(場所:奈良県布目ダム湖周遊道路)主催/奈良県サイクリング協会【☎0744-45-3123】内容/多くの人に布目湖畔の自然を楽しんでもらうためのサイクリング。

《中国》

27日(日)/マストリフェスタ2002(場所:鳥取県国府町)主催/同実行委員会 内容/マストリ、マスのつかみ取りを河川内で実施し、その中で殿ダムの必要性をPRする。【国府町役場企画開発課☎0857-39-0567】国府町では殿ダムが建設中。

《四国》

20日(月)/内場池竜王神社例大祭ならびにコル抜き式(場所:香川県塩江町)主催/竜王神社奉賛会【☎087-879-3215】内容/ダムが満水してない場合は、満水を祈念し併せて本年の五穀豊穡と水道用水の十全を祈願する。塩江町には内場ダムがある。

29日(水)/早明浦ダム植樹祭(場所:高知県土佐郡土佐町)主催/国土交通省、四国四県、地元町村 内容/植樹(香川県の中学生による植樹等)【吉野川統合管理事務所☎0883-72-3000】

《九州》

5日(日)/鯉のつかみ取り大会(場所:大分県宇目町)主催/大分県宇目町【農林課☎0972-25-4113】内容/北川ダムの水位が下がる5月、養殖池を干し、鯉のつかみ取り。大物賞あり。

6月

《北海道》

3日(月)/鹿ノ子ダムでの植樹と水道施設見学会(場所:北海道置戸町及び北見市)主催/北見市企業局【☎0157-25-1177】内容/水道週間の一環で、水道等に関する施設見学会と水源地の環境保全のための植樹を実施。ダム施設見学会。広郷浄水場施設見学会。北見市民限定50名募集5月24日(金)締切。

《東北》

23日(日)/たけのこマラソン(場所:青森県碓ヶ関村)主催/同実行委員会 内容/豊かな自然の中を体力に合った走りを楽しむ。参加者にはネマガリタケノコ汁等をサービス。【碓ヶ関村中央公民館☎0172-46-2104】碓ヶ関村には遠部ダムがある。

《関東》

23日(日)/親子ふれあい講座「ザリガニ釣り」(場所:埼玉県荒川調節池(彩湖)・彩湖自然学習センター)主催/彩湖自然学習センター【☎048-422-9991】内容/自然を通じ親子のコミュニケーション活動を行う。

29日(土)/子ども自然観察教室「のぞいてみよう顕微鏡」(場所:埼玉県荒川調節池(彩湖)・彩湖自然学習センター)主催/彩湖自然学習センター【☎048-422-9991】内容/彩湖周辺の植物・昆虫等の観察会(小・中学生対象)

《近畿》

8日(土)/山の学校達っちゃんクラブ(場所:奈良県川上村北和田)主催/樹と水と人の共生フェスタ・2002inかわかみ実行委員会 内容/昔なつかし「ちまきづくり」をしてみませんか。川上村の食文化も勉強して、みんなでわいわい楽しく、おいしく作りましょう。参加費大人1,000円、小人500円・参加募集人数各日30名。【川上村西河・山幸彦のもくもく館☎&Fax07465-3-2929(10:00~17:00水曜定休)】川上村では大滝ダムが建設中。

《四国》

13日(木)/長柄ダムゆるぬき式(場所:香川県綾上町)主催/長柄池土地改良区連合【☎087-876-1072】内容/神事、放流(今年の豊作を願う神事を行い、かんがい用水の放流を行う。)

《九州》

1日(土)・2日(日)/仏の里くにさきツデーマーチ(場所:大分県国東町)主催/同実行委員会 内容/観光スポットを巡るウォーキングラリー(1日(土)は35kmコースで行入ダムを通過する)【国東町役場商工観光課☎0978-72-1111】

# ダム貯水池の水質問題解決にむけて

柏谷 衛

東京理科大学 教授



去る1月下旬に発表された平成12年度の公共用水域の環境基準達成率は湖沼・貯水池では依然として低く、42・3%にすぎなかった。

この原因は流入する有機炭素系物質よりも、栄養塩類（リン・窒素化合物）による貯水池内の一次生産、すなわち、植物プランクトンの増殖に起因することが多かった。環境基準項目のCODで使用する酸化剤はプランクトンを酸化・分解してしまうので、植物プランクトンの多い池水ではCODを高い濃度で検出し、貯水池によっては環境基準をなかなか達成できない。

流入する栄養塩類は、生活系排水以外に、家畜の飼育、農地、森林などの非点源汚染源でも多量に発生する場合がある。しかも降雨によって池内に流入してくるから、発生源で除去するのはなかなか難しい。

流入した栄養塩類は池内に蓄積され、季節によつては短期間にかんりの濃度が一次生産で利用されてしまう。最近になって、植物プランクトン、動物プランクトン、小型魚、魚食魚と続く池内の食物連鎖を使つて、水質問題を解決できないかの調査・研究が進み、効果のあることが確認されてきた。

これとは別に、池内に設けられた人工浮き島はこの食物連鎖の中で重要な地位を占める動物プランクトンの繁殖と保護の場としての役割を果たしていることもわかってきた。



食物連鎖の利用だけでは環境基準の達成までには難しいかも知れないが、生態系の豊かなダム貯水池を構築していく大きな第一歩となることは間違いない。

# ダム水環境改善事業の拡充について

国土交通省 河川局 河川環境課 流水管理室

## 1 はじめに

ダム水環境改善事業は、平成5年度に創設された事業制度で、ダム下流の無水・減水区間の解消、生物生息環境及び下流河床環境の改善を目的とした放流設備の新設・改良、堰や堤高の低いダムへの魚道の設置、ダム放流水の浄化施設の設置及び下流河床の整備等を実施してきたところです。本年度からは、本制度を拡充し、「未だ需要の発生していない都市用水を活用した清流回復」に資する事業も実施することとなりましたので、以下に概要を紹介します。

## 2 ダム水環境改善事業拡充の概要

国土交通省が直轄管理している多目的ダムの中には、都市用水の需要が、開発した水量の一部しか発生していないものがあります。本事業は既存ストックの有効活用の一環として、需要が未発生となっている都市用水を最大5年間、河川の維持流量として一時的に活用し、河川の水環境改善を図るつとめるものです。事業実施

期間中は、従来都市用水の事業者が負担していたダムの維持管理費用の一部をダム水環境改善事業で負担します。

## 3 平成14年度の実施箇所

釜房ダム（東北地方整備局）

釜房ダムは、宮城県名取川水系暮石川に位置する洪水防衛、上水道用水、工業用水、不特定用水の補給を目的とする多目的ダムで昭和46年から管理を行っています。このうち、工業用水の一部（約0.5m<sup>3</sup>/s）が現在のところ未利用の状況にあります。

一方、名取川水系広瀬川の郡山堰下流約3.6kmの間は、100万人都市仙台市の中心部に近く、市民に親しまれています。しかし、夏期においては、取水により度々水涸れとなり、瀬切れや魚類の斃死が見られるなど河川環境が悪化しているため、地元のNPOを中心として改善を求める声が高く、マスコミにも取り上げ

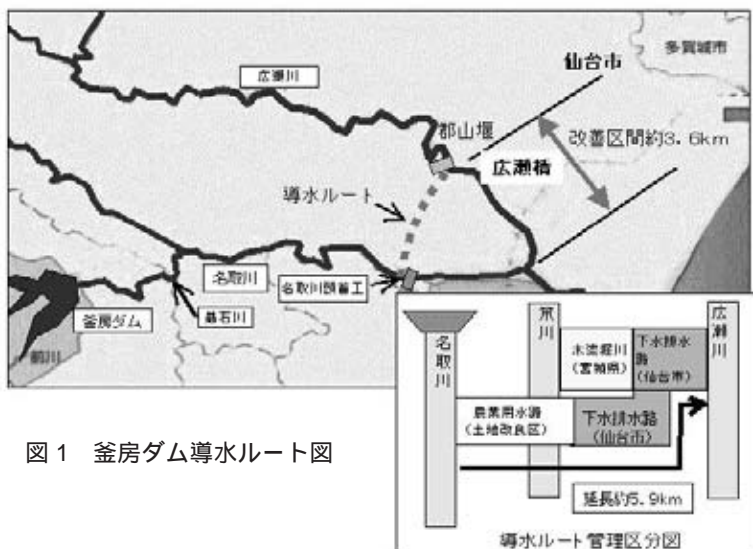


図1 釜房ダム導水ルート図

られるなど、清流回復への社会的なニーズも大きいところです。

そこで、需要が未発生で当面の間使用する見込みのない工業用水を活用し、名取川の名取頭

首上から農業用水路及び都市下水路を経由して  
 広瀬川へと導水(図1)し、年間を通して水涸  
 れとなる期間を無くし、河川環境の改善を図  
 るものです。(図2)

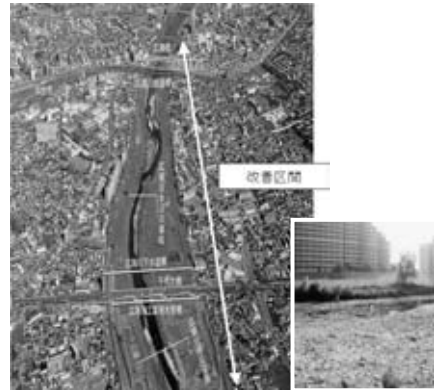


図2 広瀬川環境改善区間(瀬切れの状況)

てどりがわ  
**手取川ダム(北陸地方整備局)**

手取川ダムは、石川県手取川水系手取川に位  
 置する洪水防御、上水道用水、工業用水、発電  
 を目的とする多目的ダムで昭和55年から管理を  
 行っています。このうち、工業用水については、  
 新規開発水量0・62m<sup>3</sup>/sの全てが現在のと  
 ころ未利用の状況にあります。

手取川ダムからの放流は、洪水時を除けば発  
 電放流のみであり、ダム下流の約2kmについて  
 は、発電バイパス区間であることから無水区間  
 となっています。このため、不快藻類の繁茂に  
 よる景観の悪化や悪臭の発生の他、草木が生い

茂り、川としての本来の機能が見られない状況  
 にあり、地元からは川らしい良好な河川環境を  
 取り戻してほしいとの要望が多く寄せられてい  
 ます。(図3)

そこで需要が未発生で当面の間使用する予定  
 のない工業用水を活用し、下流河川に放流する  
 ことにより、河川環境の保全を図ります。

(図4)

また、手取川ダムは小規模の放流設備を持た  
 ないため、適正な維持流量の放流が行えるよう  
 放流設備の新設も併せて行います。

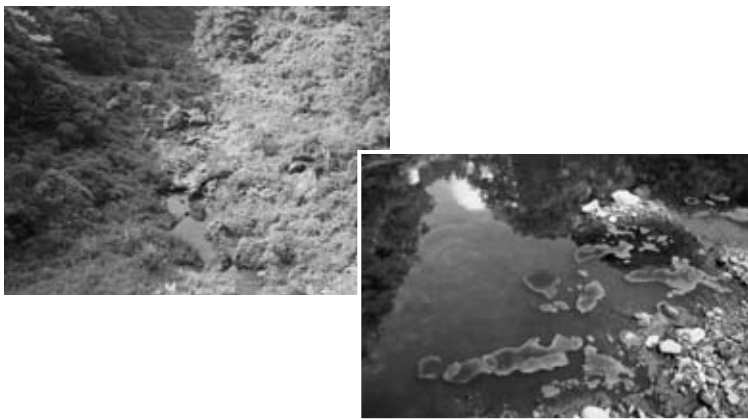


図3 手取川ダム直下の状況(瀬切れや不快藻類の繁茂の状況)

**4 終わりに**

国土交通省では、平成9年度から実施してい  
 るダムの弾力的管理を始め、今回のダム水環境  
 改善事業の拡充など既存ダムをより有効に活用  
 しながらダム下流の水環境の改善に取り組んで  
 いくこととしています。

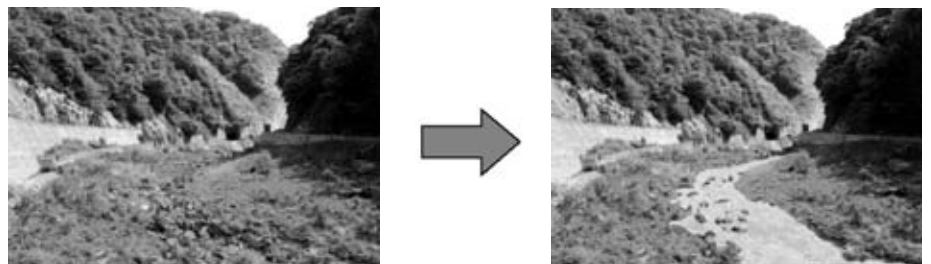


図4 手取川ダム事業実施イメージ図

# 自然環境を守り、心豊かな町づくりを目指して

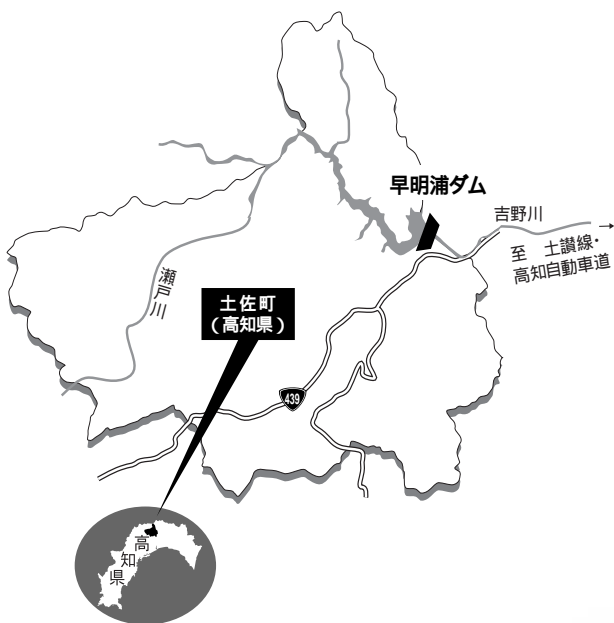


高知県土佐町役場  
企画振興課 企画調整係長  
**和田 幸彦**

高知県土佐町は、四国のほぼ中央部に位置し「四国のへそ」と呼ばれています。面積212km<sup>2</sup>、人口約5千人の農・畜・林業が基幹産業の町です。高速道路が整備されたおかげで、車で高知市まで50分、四国の他の各県庁所在地まで2時間弱で行けるようになりました。

## ◆環境を活かした基幹産業

町の面積の86%を山林が占め、その80%が杉、松の人工林です。土佐町は昔から優れた「れいほく（吉野川源流域5箇町村の総称）材」の産地として知られる木の町です。れいほく材は大坂築城の時に大岡秀吉から日本一というお墨付きをもらったことで、全国に知られる銘木になりました。特に杉材は、この地域特有の芯に独特の赤色を持つもので、「赤身杉」、「土佐の赤杉」とも呼ばれています。



土佐町の「棚田」



本町では、こういった優良材の育成、管理を進める一方で、県下に先駆けたプレカット工場（家の材料を加工する工場）の設立、大工さんを育てる全国唯一の人材養成センター、住宅建設の土佐産商を設立しています。また、機械や重油に頼らない葉付き乾燥剤や薬剤を使わずに防虫効果を高める木材燻煙法の開発など、健康に配慮した建材とするために、さまざまな取り組みや研究が行なわれ、厳しい状況に置かれた林業の未来に挑んでいます。

本町には、山に向かって拓けた棚田が多く、盆地特有の標高差のある地形や寒暖差を活かした農業や畜産業が行なわれています。農業生産の4割が米で、高知県の三大米どころとして知られている、良質な米の産地です。また、土佐赤牛という和牛の産地でもあり嶺北ビーフ、れいほく高原牛乳として出荷されています。これら家畜の糞尿や生ゴミ等の有効利用を図る堆肥センターが建設され、有機による土づくりを中心とした循環型農業を推進しています。





四国のいのち -- 早明浦ダム

また、大阪・千里ニュータウンにオーブした産直サテライトセンター「とき千里」は生産者と消費者を結ぶ人と物の交流拠点として親しまれています。

◆早明浦ダムを活用した地域振興

「四国三郎」吉野川は四国一の大河です。その上流域では、年間平均2500ミリの雨が降り、支川の水を集めながら徳島県へと流れています。吉野川総合開発計画に基づいて昭和48年に完成した早明浦ダムは多目的ダムとして西日本一の規模を誇り、貯水量は全国第4位。四国四県に分水され、四国の水がめとして多くの人々の暮らしや産業を支えるとともに、流域の洪水被害も軽減してきました。



さめうらの郷湖畔マラソン大会

●お問い合わせ先：  
湖畔マラソン実行委員会  
(土佐町生涯学習センター内湖畔マラソン係)  
☎0887-82-0600



さめうら森林公園

●お問い合わせ先：さめうら荘  
☎0887-82-1020

●交通：高知自動車道大豊ICから国道439号線を車で20分  
：JR土讃線大杉駅からバスで25分

ダム湖は上流20kmにわたって、約7・5kmの広大な水面を持ち、堰堤から本四連絡橋のモデル橋として建設された上吉野川橋までを1周する約11kmの湖畔沿いの道路は、春には2000本の桜やツツジの回廊となり、初夏には町の花である紫陽花が咲き、秋には紅葉と四季折々の彩りを見せます。

本町では早明浦ダム周辺を観光・レクリエーションゾーンと位置づけ、水源地域と下流域の人々を結ぶ交流の場と四国の命の水を守るために、利水地域の協力も得ながら、水源涵養として広葉樹の植樹も進めています。



イベントも、もりだくさんの「やまびこカーニバル」

更に、水源地域に対する理解を深めていただくための情報をイベント等を通じて全国に発信しています。8月第1土曜日

には、水の有効利用等について四国四県など関係機関が一同に会する「早明浦湖水祭」に引き続いて、ダム直下のふれあい広場を主会場に水源地域最大の夏のイベント「やまびこカーニバル」が開催されます。このお祭りは、バーベキューコンサートや花火大会、ダム建設で犠牲になられた方を供養する精霊流しなどが行なわれ、地元はもとより多くの人で賑わいます。翌日には、ダム施設見学や子どものイベント、スポーツイベント等も行なわれます。11月第2日曜日には紅葉のダム湖畔で健脚を競う「さめうらの郷湖畔マラソン大会」が開催され、1000名近いランナーが参加しています。

また、早明浦ダム湖には、釣りなど湖面を利用したスポーツを目的にたくさんの方が訪れるようになりました。こうした方々に楽しんでいただけるダム湖にするために、湖面利用のルールづくりや駐車場の施設整備を進め、釣り大会等のイベントも積極的に誘致、開催することにより、多くの方に土佐町においていただくことを期待しています。

これからも、自然を大切にし、住んで良かった。来て良かった。という心豊かな町づくりを目指していきたいと、考えています。



ワークショップの様相

# ワークショップ 「自然と共生した流域圏・都市の再生」 開催報告

財団法人 ダム水源環境整備センター 研究第三部 渡邊 豊

平成13年度、内閣府の「総合科学技術会議」においては、重点を置くべき科学技術の分野のひとつとして環境を挙げましたが、当該分野の研究開発目標のひとつに「自然共生型流域圏・都市再生技術研究」が置かれています。この目標には国土交通省、環境省など5省が取り組むこととなりましたが、それに対応して「自然と共生した流域圏・都市の再生ワークショップの実行委員会」が設立されました。

平成14年2月9日に東京都港区の発明会館で、河川や流域圏という視点で問題意識を持ちながら研究されている方々を一堂に会して討論する場としてワークショップが開催されました。はじめに、実行委員長である財自然環境研究センター理事長大島康行氏から、環境のみならず社会経済などの問題を含めた総合的な研究の

必要性と、流域圏と都市再生の融合手法や、都市再生に向けた自然共生型の河川のあり方など研究の課題をお話いただきました。ついで、総合科学技術会議評議員である石井紫郎氏から、総合科学技術会議の概要及び役割として都市再生、流域再生の実現への推進戦略の策定や、各省の連携やイニシアティブ体制の意義等についてのお話をうかがいました。

次いで、丹保恵仁放送大学学長の基調講演を始めとして、6名の学識経験者の方々から「水に関わる循環」に関するご講演を頂きました。当日の会場には、休日にもかかわらず約200名の方々が聴講に訪れ、講演後の討論では意見・提案・質問等、活発なやりとりがなされ、今回のテーマに対する関心の高さをうかがわれました。

基調講演

## 「流域構成と都市水代謝」

放送大学長 丹保 恵仁氏



人が生活に要する水量の3倍程度が流域に存在しないと、その流域生態系が適切な維持が不可能である。水の品質に見合った多段階の利用や、水の物質輸送媒体としての活用及びコジエネレーションによるエネルギーとしての活用などの「水システム」の構築が必要である。

また、太陽などグリーンエネルギーによる食料などで生活可能な「飽和人口」の考え方や、製品の長寿命化や新たな物質の創造による循環速度の低減、化石エネルギーの材料資源への利用などの考えを踏まえて、流域を「都市産業、生物生産、自然生態系保全」のおおの特性に応じた流域管理に向けた水システムの構築が必要である等のお話をいただきました。

### 空間の戦略：都市産業域

**都市産業域の新構造：**  
高密度・コンパクト化、省資源・省エネルギー、新エネルギー開発、ゼロデスチャージ政策など他領域との境界制御の明確化（ヒトの新文明活動の中心）  
**生産緑地との間の自然循環：**  
農業との2年卓越周期の循環、人工林地（準自然保護域）との間の50年程度の周期の循環経路と収支の明確化（ヒトの生存基盤）  
**自然保全域：**  
多様な生物の一種としてのヒトの自制と自然回帰先（現実には準自然保護域を主とせざるを得ない）

各省の取り組み

### 「自然共生型流域圏・都市再生イニシアティブ」



吉川 勝秀氏  
国土交通省 国土技術政策総合研究所  
環境研究部長

流域圏の自然基盤を保全修復するには、水、物質、エネルギー循環の実態の解明や、それらを統合したモデルを構築する必要がある。さらには政策シナリオなどの研究・評価及び再生技術、環境GISなどを活用した情報基盤、管理モデル、分析評価システムの開発に向けた研究開発を、大学や民間、NPO等との連携により検討することが望ましい。

これらにより、流域圏都市での自然、水物質循環、ふれあいの再生や、海域を含めた流域圏の水環境や生態系の保全・再生、さらには都市内で生態系ネットワークの形成が可能である旨のお話をいただきました。

### 1-2水物質循環のモニタリングおよび実態解明



テーマ講演

### 「流域圏における水循環系の健全化」



虫明 功臣氏  
東京大学 生産技術研究所教授

自然・生態系を保全する機能を持続するため「健全な水循環系」の構築には、表層水のみならず地下水を含めた水の機能を適切な状態に保つことが重要である。

また、河川下流域の都市市民が水源地であるダム周辺に対する思いを活性化すべく「健全な水循環」流域圏水マネジメント」として、流域圏の土地利用を含めて、利水、治水、環境に関して、地域間あるいは部門間で継続し、それによりバランスをとりながら調整することが必要である旨のお話をいただきました。

テーマ講演

### 「総合治水から流域思考の都市再生イニシアティブへ」



岸 由二氏  
慶應義塾大学 経済学部教授

自然と共生した都市を形成し、安らぎある都市づくりに向けた「流域水マスタープラン」の策定にあたっては、流域圏内において、森林や水田を活用した治水対策や、地形を生かした生物多様性の保全回復計画、災害時の緊急物資集積等における河川の水路としての活用、水辺のふれあいを通じて流域意識の向上を図る必要がある。

さらにその構築には、行政と企業や市民、特に河川管理者と市民団体による連携が重要であることを、鶴見川流域での事例・体験に基づき生物学者の観点からお話をいただきました。

テーマ講演

### 「流域圏をどのように診るか 物質循環の立場から」



和田 英太郎氏  
総合地球環境学研究所教授

自然界に存在する安定同位体(δ<sup>13</sup>C、δ<sup>15</sup>Nなど)は、米や小麦などの食料や気体などを通して物質循環をすることから、流域の有機物や堆積物中の同位体比率の計測により、その地区の人口密度や土地利用状況及び水質浄化機能などの評価ツールとして利用が可能であり、その評価ツールを利用して流域全体の「水・物質循環などの評価」、さらには世界の各流域全体の評価に向けた壮大な研究への方向性を提示していただきました。

テーマ講演

### 「農山村における環境ストックの蓄積とその利活用」



三野 徹氏  
京都大学大学院 農学研究科教授

農業技術の水準や生活水準により一人あたりが使用する水量に相違があることや、食料の生産に要する水量と輸入食料の水換算などから見た「水資源量」の考え方に基くと、我が国が大量の水を消費している。

また、水田は食料生産機能に加えて、微生物など生態系基盤であるとともに硝酸性窒素などの浄化・保持能力などの多面的機能を有する「地域の環境ストック」としての役割を担っている。

さらに、農山村と都市市民との交流の場としての圃場を整備することによる相互の「新しい共生の形成」を図ることの必要性を、亀岡市の事例を交えてお話をいただきました。



とくやま  
徳山ダム  
岐阜県

# 徳山ダム上流に実のなる木を植えよう大作戦

徳山ダムは、揖斐川の河口から約90km上流の岐阜県揖斐郡藤橋村に建設されるロックフィルダムです。洪水調節・新規利水の開発・発電及び河川環境の保全等のための流水の確保を目的とした多目的ダムで、日本最大級の規模となります。また、徳山ダム周辺には豊かな自然も残っており、たくさん動物が生息しています。

NPO揖斐環境レンジャー、揖斐川流域森林・林業活性化センター

(以下「主催者」という)

が中心となり、徳山ダム上流に実のなる木を毎年植えることにより、豊かな生態系をつくるとともに、参加者に山の仕事を体験してもらうことを目的として昨春秋にも、一般公募を含め57名の方々が参加し「徳山ダム上流に実のなる木(クリ、ミズナラ、コナラ、トチ)を植えよう大作戦」を行いました。まず、2年後の植樹に使う苗木を育てるため

に、近くの苗畑に移動し、主催者スタッフの指導のもと、徳山地内やダムサイト周辺で採取したミズナラやコナラなどの種子を苗畑にまきました。

種まき終了後、徳山ダム上流に移動して付替道路沿いに実のなる木を植えました。鎌で雑草を刈り取る地ごしらえを始めとして、植樹、添え木と山仕事を体験し、作業を終えると、みんな植樹活動をやり遂げた充実感と達成感に輝いていました。

植樹終了後、主催者スタッフ特製のイノシシ汁で楽しい昼食タイムを過ごし、自然学総合研究所副所長(徳山ダム植物プロジェクトメンバー)の安藤先生より「豊かな生態系を維持していくためには、このような地道な活動が大切である。また、植樹する苗木は、地元のものが多い」といった講話をいただき、継続した活動の重要性を認識しました。

帰り際「次回は自分で育てた苗木を植えてもいいですか」という質問をいただくほど、森林保全意識の高まりが感じられました。今後も継続した活動を行い、豊かな森林環境や

地道な活動に夢をたくして.....



みんなの苗畑(種まき後の記念撮影)



生態系保全に対する意識の高揚を図っていきたく考えています。



スタートを目前にして緊張感がみなぎる



はったばら  
八田原ダム  
広島県

## 第3回「夢吊橋マラソン大会」開催

広島県世羅町は、県の中央に位置し、標高500m～600mのこの地帯は通称「世羅台地」と呼ばれ、ナシを中心にリンゴ、ブドウ等果物の生産が盛んな所です。隣町の大和町を源に甲山町、府中市を經由し福山市から瀬戸内海に注ぐ一級河川芦田川が流れています。その中間点に平成9年度に完成した、治水・利水を目的とする多目的ダムである八田原ダムがあります。周辺にオートキャンプ場やサイクリングロードがあり、そびえ立つダム堤（堤高89・3m）にはエレベーターで登ることが出来ます。また、ダムを南北に渡る八田原大橋（斜張橋）は高くそびえ、周辺景観をいつそう引き立てていますし、なんと言っても、このダムには橋脚を持たない吊床版橋としては世界一の長さを誇る夢吊橋が架けられ、多くの観光客が絶えません。橋の北側に設置してあるギネスブック社から贈られた証明書は地元民の誇りとなっています。

府中市と甲山町の行政が、その活用をどのようにするかを検討するために、「八田原ダム芦田湖周辺活用連

絡協議会」を4年前に発足させました。一人でも多くの人にダム湖周辺の変貌ぶりを知ってもらい、素晴らしい景観に感動してもらうためのイベントとして、集客効果のある「マラソン大会」と、湖面を利用した「サマーフェスティバル」を企画しました。双方に実行委員会を結成し、3年前から盛大に開催しています。



元気いっぱい夢吊橋を走る

3月17日には「第3回夢吊橋マラソン大会」が開催されました。多くのマラソンファンから「すばらしい景色をバックに走る爽快な気分は何とも言えない」と好評を得て、次の

大会へと胸をふくらませています。参加人数も年々増加し、今大会は応援者も含めると約850名が参加し、豚汁に舌つづみをうち、最後の餅まき大会まで、さながらお祭り気分でした。初春のおだやかな一日を過ごしました。今後、大会を更に盛り上げていきたいと思っていますので、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

〔甲山ふれあいの里 支配人  
烏田 朗〕



「夢吊橋もびっくり サーチャージ水位時」撮影：石川 正道



てらうち  
寺内ダム  
福岡県

# やまもりフェスタ2002

## 海も都市も、さあ、古里の森に!!

平成14年3月10日(日) 甘木市、福岡市(水道水源涵養事業基金)及び甘木市森林組合の主催による「やまもりフェスタ2002」が、あまぎ水の文化村と甘木市寺内ダムの周辺をメイン会場として開催されました。

このイベントは、水源地である甘木市と水の恩恵を受ける福岡市、そして民間の団体とがジョイントし、水を育む森林の大切さを伝えるために、水源地でさまざまなイベントを行なうものです。

当日は、好天に恵まれ絶好のイベント日和となり、午前中から昨年をはるかに上回る来場者(約3000名)があり、会場は今までにない賑わいを見せました。

今回は、本格的な森林保育作業として枝打ちを行い、森林の現状を参加者が実際に肌で体験する、大変良い機会だったと思います。

また、福岡市と甘木市との交流事業である『やまもりフェスタ』も4回目をむかえ、特に今回は福岡県有明漁連と筑後中部鮮魚買受人組合の参加をいただき、「海も都市も、さあ、古里の森に!」をキャッチフレーズに



人気を呼ぶ  
シイタケの菌打ち体験

初めての枝打ち



山から海までグローバルに地球環境保護を唱えることができました。

イベントの中では、山が海の幸を育むという自然の流れを理解してもらったために、有明海苔の無料配布や新鮮な活魚の無料試食が行なわれ長蛇の列ができるなど、始まって以来の盛況ぶりに実行委員会長を始めとするスタッフ一同、驚きと興奮の連続でした。

この有明海との交流が「やまもりフェスタ2002」の単独のイベントとして終わることなく継続的な交流にすることで、環境保護に対する意識を高める架け橋となりうると確信



有明海の新鮮な魚の試食やアサリのつかみ取り



ダムの背面登りに挑戦

しています。  
回を重ねるごとに、新しい企画を誕生させ、来場者の方々が喜んでいく姿を目のあたりにして、今後も継続して実施していかねければと再確認した貴重な一日でした。

〔甘木市 建設経済部 農林課  
金堀 憲一〕

奥香肌湖 春まつり  
自然を体験し、  
人と人の交流をしよう

4月7日、三重県飯高町にある蓮（はちす）ダム湖畔・津本公園において、恒例となっている第4回「奥香肌湖 春まつり」が開催された。桜の季節は過ぎたものの、参加した人は遠くの山桜、鯉のぼりを眺めつつ、鶯のさえずりが聞こえる会場でゴンドラによる空中散歩、ボートでの湖面周遊、湖岸道路のサイクリングなど、山里の自然を楽しく体験した。

公園内には、「兜」の折り紙を体験する親子ふれあいコーナー、アマゴの釣り堀、地域主催による各種バザー、土産物販売のテントが並び、中央ステージでは歌謡ショー、カラオケ、紅白の餅まきなどが行なわれ、参加者の楽しい交流の場となった。



第4回水と湯の郷  
長島ツーデーマーチ開催

4月6日・7日、三重県桑名郡長島町でウォーキングの祭典「第4回水と湯の郷長島ツーデーマーチ」が開催された。

木曾三川に囲まれた水郷のまちに全国から訪れてもらおうと始まったこの大会に、今年も北は北海道、南は鹿児島県にいたるまで全国から約1000名が参加した。



6才から88才までの幅広いウォーカー愛好家が集まり、両日とも長島水郷輪中太鼓が歓迎演奏するなか、10・20・30kmのコース別に出発し、コース沿いにある輪中の郷、伊勢湾台風記念館、長良川河口堰、なばなの里などに立ち寄りながら、思い思いのんびりと水の郷ウォークを楽しんだ。長島町では、今年10月24日・25日には全国水の郷サミットが開催される。

第17回さくらまつり

4月7日、和歌山県二川（ふたかわ）ダム公園をメイン会場に「第17回さくらまつり」が開催された。当日は、午前中小雨が降りイベントの開催が心配されたが、午後からは絶好の日となり町内外から多くの人が訪れた。

正午より北実行委員長の挨拶の後、城山西小学校を卒業した生徒を中心とした「子ども歌舞伎寿式三番叟（ことぶきしきさんばそう）」の舞に続き、「しみず温泉阿氏河太鼓（あてがわだいこ）」など次々と各種の催しが行われ、来場者を楽しませてくれた。



渡良瀬遊水地でクリーン作戦  
実施される

4月13日、茨城、栃木、群馬、埼玉の四県にまたがる渡良瀬遊水地全域（約33km）を対象とした「渡良瀬遊水地クリーン作戦」が実施された。



当日は、好天に恵まれ、渡良瀬遊水地内の2市4町（古河市、小山市、野木町、藤岡町、板倉町、北川辺町）及び本部の計7箇所各集会所には全体で、約3100名の参加者が早朝より集まり、午前9時から一斉にゴミ拾いを開始した。

作業は約2時間近く行なわれ、ゴミの量は全域合計で、2トン車115台分（約290m<sup>3</sup>）にもなった。ゴミは空き缶、ペットボトル等が多く、テレビなどの家電製品も目立った。

編集メモ

大昔、アントロピー増大法則を初めて聞いたときは、なるほど自然はすごいと感心したものです。しかし、最近、小は手元分別から大はバックカスティング等に至る話題に接すると、人間の知恵がいかに大切かという思いもします。

人工浮島も、ローカルかもしれませんが、アントロピーを低下させる努力の一つになります。ウェットランドも、ピオトープも、と重ねていくうちに、意外に大きな力になるのかもしれない。



# 森と湖に親しむ旬間

平成14年7月21日(日)~31日(水)

旬間統一標語

ふれあいさわやか 森と湖  
さわやかな 心のオアシス 森と湖  
もうひとつ ふるさと見つけた 森と湖

森や湖に親しんで、  
心とからだをリフレッシュしましょう。  
森林やダムなどの大切さについて  
理解を深めましょう。

## 全国森と

### 全国行事 湖に親しむつどい

会場 / 弥栄ダム湖畔

(山口県美和町・岩国市、広島県大竹市)

開催日 / 7月27日(土)~28日(日)

主催 / 「森と湖に親しむ旬間」全国行事実行委員会  
「森と湖に親しむつどい」現地実行委員会

主催 / 国土交通省・林野庁・都道府県・市町村